

令和2年度第2回古賀市補助金審査委員会 会議録（要点筆記）

【会議の名称】 第2回古賀市補助金審査委員会

【日時・場所】 令和2年7月17日（金） 10時30分～12時00分
市役所第2庁舎206会議室

【主な議題】

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 2次審査（プレゼンテーション審査）の進め方について
4. 2次審査（プレゼンテーション審査）
 - ① こが婚活サポートセンター出合いの集い事業 <NPO法人こが婚活サポートセンター>
 - ② ライフプランノートを使った終活講座事業 <NPO法人市民後見センターふくおか>
 - ③ 古賀市民クリスマスマーケット事業 <一般社団法人こがみらい>
5. 個別補助金審査について
6. 2次審査（プレゼンテーション審査）の結果について
7. その他
8. 閉会

【出席委員などの氏名】

委 員：宗像優委員長、今村晃章副委員長、小河武文委員、貞光紀美子委員、山崎あづさ委員

事務局：（財政課）柴田武巳課長、村松央規係長、木梨俊史主任主事、竹下孝充主任主事

関係課：（経営戦略課）大浦康志課長

（介護支援課）松島真理主事

（商工政策課）西村秀隆係長

【庶務担当部署名】

総務部 財政課 財政係

【委員に配布した資料の名称】

資料番号	名 称
資料1	タイムスケジュール
資料2	プレゼンテーション審査票
資料3	1次審査（書類審査）での質問等について
資料4	古賀市個別補助金審査要領（改正案）

【会議の内容】

○審査

補助事業名称：こが婚活サポートセンター出会いの集い事業

申請団体名：NPO 法人こが婚活サポートセンター

補助申請額：200,000 円

<プレゼンテーション要旨>

(申請者)

- ・団体の立ち上げ

2年半前。

- ・団体の活動の趣旨、目的

人生の大きな喜びや生きがいの基本は男女が伴侶を得て家族を持ち、楽しく末永く暮らすことと考えており、そのために必要な男女の出会いの場を作ることを目的としている。また、少子高齢化が進み、今後2～30年で人口1億人を切る推定を国が出していることについて不安を感じている。

日本が世界で活躍できる国になるために人口1億人を維持することが必要と考えており、国も保育事業など様々な対策を講じていることから、自分たちもその一助になりたいと考えている。

- ・応募の理由

現在、筑後八女市では、自治体の支援を得て10年以上活動している婚活サポートセンターがあるが、自分たちはこの2年間PR等頑張ったがなかなか登録会員が増えない。公的機関からの認証をもらって活動を認めてもらうことで、団体として信頼が得られ、登録会員の増につながると考えて、今回、古賀市公募型補助金に応募した。

- ・今までに、平成29年5月に新宮でイベントを開催。また、平成31年11月に中央公民館で開催した。その時は33名の応募があり、5件のカップルが成立したが、その後の発展には至っていない。機会だけでなくその後のサポートの必要性を感じているので、常時相談事務所を開いていたが、現在は土日の12時から17時までとしている。

- ・婚活事業は国が県を通して市町村に依頼を出しており、福岡県ではまず県南が公的法人として婚活サポートセンターを立ち上げて取り組みを開始している。近隣では、筑紫野市、志免町、宗像市、古賀市、福岡市、北九州市ではすでにある。民間でも類似の活動が多くあるが、入会金が高く、カップル成立するとさらに費用が掛かるなど、参加者の負担が大きい。

<質疑応答>

(委員) 福岡県認証のNPO法人ということだが、県の所轄部署のHPで事業報告書が未提出とある。これについてはどういう状況か。

(申請者) 事業報告書の提出が必要との認識をもっておらず、県からも提出の通達がなかったため、申し訳ないが未提出だった。速やかに必要資料を確認して提出する考え。

(委員) 会員種別ごとの利用料があるが、現在の正会員、賛助会員、利用会員の人数及び利用会員について説明を。

(申請者) 賛助会員は、企業・団体・個人で当団体の活動に賛同する方で、だいたい年間5,000円、好意によっては10,000円の寄附金を頂いている。会員数は2社(2名)。正会員は、婚活サポートセンターの役員のことで人数は10名。利用会員は、婚活サポートセンタ

一に入会・登録して年会費5,000円を支払っている方で現在は男性5名、女性8名の計13名。

(委員) 今後3年間、補助金を要望すると思うが、今後の資金についてはどう考えているか。

(申請者) 現在、運営に係る事務所・電気代等の各費用については私が個人で負担しているが、土日に事務所を開設するときの職員の人件費も必要なので、そういったものに市の補助金を充てたい。

(委員) 正会員、賛助会員の増員の働きかけは。

(申請者) 正会員の増員については可能だが、手続き上の問題や県への対応もあるので、できればこの10名でやっていきたい。賛助会員のお願いもしているがなかなか増えない。また、一番の目的は登録会員を増やすことで、出会いの場の提供ということを考えて最低でも男女それぞれ50名ずつの計100名程度に増やしたいと考えている。そうなれば、登録費用による収入で、現在の週2日の開設を3～4日に増やすこともできるし、市の補助金を受けなくても自立した運営が可能と考えている。今後、八女の婚活サポートセンターともタイアップの打診をしたいと考えている。

(委員) 事前提出があった収支計画書で、人件費の月額32,000円はどういう計算か。

(申請者) 時給800円×1日5時間×月8回で月額32,000円。

(申請者) 借入金について、現在は電話代、家賃等の費用は全て私が負担しており問題ない。

(委員) 事前に質問事項を送付しており、その回答も含めてのプレゼンテーションを行っていただきたい。

(申請者) 団体を立ち上げて2年なのでまだ手探りのことが多い。これから整備していきたい。

補助事業名称：ライフプランノートを使った終活講座事業

申請団体名：NPO法人市民後見センターふくおか

補助申請額：50,000円

<プレゼンテーション要旨>

(申請者)

1. 一次審査での質問への回答

(質問) 参加人数を20名と計画している理由について

(回答) 自分たちはホワイトボードを使った参加型の講座を実施しているので、通常でも30名が上限。人数を増やして会場を広くすると、高齢者はボードが見えない、マイクの音声が聞き取れない等もあり得るので、新型コロナウイルス感染症対策ということもあり今回は20名とした。

(質問) 事業の周知の方法及び範囲について

(回答) 古賀市の広報紙や社会福祉協議会の掲示板・チラシ。また、会員報を使って古賀在住の10名程度の会員へ連絡し、近隣への声掛けをしてもらう。

(質問) 古賀市近郊の市民はどのような方を想定しているのか。

(回答) 古賀市民が福津市に住む親と一緒に参加するなど、家族、兄弟、友達同士での参加が増えており、古賀市民限定とはしていない。

(質問) アンケート回収率が80%とあるが、もっと高い回収率を設定すべきではないか。

(回答) アンケートは〇×式ではなく、A5用紙を渡して自由に記入してもらう形なので、白紙で出される方もおり、現時点で回収率は75%程度。〇×式だと回収率は高くなるかもしれないが、出来るだけ参加者の意見を反映したいので記述式でアンケートを取りたい。講座の中で記入時間の取り方を工夫して80%を目指すこととしているが、これは自分たちとしては高い数字。

(質問) 申請額が5万円となっているが、広い会場を設け参加人数を増やすことや受講料を上げることなどで、補助金がなくとも自己資金で賄えるのではないか。

(回答) 参加者に高齢者が多く、また、新型コロナウイルス感染症対策を考えると、広い会場での実施は難しい。受講料については、他の自治体では無料で実施している例や、葬儀業者等で類似の講座を開催している例があり、ある程度参加しやすい金額を設定する必要がある一方、無料だと申し込むだけで参加しないことも考えられるので、1回500円と設定している。それでも毎回500円、夫婦だと1,000円となるので、参加者にとっては、負担は小さくないと考えている。

2. 講座内容について

- ・1日目はノート（申請者配布資料）を使った講座を行っている。これはシニアライフに必要な情報を書き留めるというもので、このノートの説明と併せて「何でも奥さんに任せきりだったので、奥さんが亡くなって困った。そういう時に、このようなノートを書いておくことで残された配偶者・子供が助かる」「年配になり、財産や亡くなった後のことが心配で不安症のようになっているお母さんが、一緒にこのノートを書くことで元気になった」等の事例を紹介し、終活のポイントやノートの記入のポイント等を説明する。成年後見制度、相続・遺言についてはとても難しい内容なので、別建てで講座を行う。最終日は、回収したアンケートをもとに今後について参考になるようなこと説明をしたり、受講者からの相談を受けたりする時間を設けている。
- ・相続についての講座では、ホワイトボードに家族の絵を家系図のように貼り出し、「この人が亡くなったら法定相続人は誰になるでしょう？」等のクイズ形式で講座を行う。相続について引っかかる箇所はだいたい決まっているので、ポイントを押さえた講座を行い、基本的な知識を伝える。また、一方的な講義ではなかなか頭に入りにくいので、受講者にも役を振り分けて簡単な劇を行うことで、講義に参加してもらい、相続を身近に感じてもらうような工夫をしている。こういったこともあり、気軽に発言できるような雰囲気を作るためにも少人数での開催としている。

<質疑応答>

(委員) 行政が出す補助金について、民間からの補助金を活用しているようだが、行政の補助金を活用するのは今回が初めてか？

(申請者) そのとおり。なかなか自分たちの活動に合う補助金が見つからなかった。

(委員) 行政の補助金の原資は税金なので、原則古賀市民への還元ということを考えた時に、参加者について「原則、古賀市民。事情がある場合には近隣の方も」とすることや「古賀市民優先」とした形で企画・募集をすることになっても対応できるか。

(申請者) 対応可能。募集チラシ等では「古賀市民優先」という一文は記載しなければならないと考え

ている。また、先ほどの説明のように親子での参加等もあり得るので「事情がある場合にはご相談ください」の文言を入れたと考えている。

(委員) 事業の周知方法について、先ほどの説明以外に古賀市の老人クラブへの周知はしないのか。

(申請者) 以前、古賀市の老人会からの声掛けで、公民館で実施したことがある。そういった場合には地域の公民館など、お誘い頂いた方々の近くでの実施となることが多いのかなと思うので、今回のリーパスプラザ古賀での開催については、特に老人クラブへの周知は考えていない。

(委員) 古賀市民のこの講座に対するニーズについては、どう考えているか。

(申請者) 以前、古賀市でも何度か開催したことがあるが、その時はなかなか良い会場が取れず、サンコスモでも実施したがアクセスが難しかったのか参加人数が少なかった。その後、しばらく古賀市では実施していなかったが、昨年、一昨年に古賀市の地域の公民館からの声掛けで実施したこともあり、今回のリーパスプラザでの開催で、実施後に「近所の公民館でも実施しようか」ということになることも狙っている。

補助事業名称：古賀市民クリスマスマーケット事業

申請団体名：一般社団法人こがみらい

補助申請額：300,000 円

<プレゼンテーション要旨>

(申請者)

・事業の目的

古賀駅西口に賑わいと明るさと呼び、ここから古賀のまちづくりを展開していくこと。

・団体について

古賀を元気に活性化していくことを目的として立ち上げた団体。企業支援、人材育成等により地域活性化を目指す。現在は結成から3年目で、2年目から学生のプロジェクトが立ち上がっており、精力的に活動している。過去には、サンリブ古賀でのチャレンジショップの実施、中小企業との異業種交流等を行っている。

・JR古賀駅西口の現状

JR古賀駅の利用者数は、JR九州の全駅中26位で九州でも上位。古賀市には他にJR千鳥駅、JRししぶ駅もあるが、JR古賀駅の利用者数が多い。一方、駅前商店街では高齢化が進んでおり、多くの店が夜7時に閉店、日曜日は定休日となっており商店街の中は人通りが少ないが、JR古賀駅周辺では若い人も含めて人通りは多いので、何かのきっかけがあれば少しずつ商店街に人通りが入ってくると考えている。

・クリスマスマーケットについて

JR古賀駅から商店街にかけてイルミネーションを設置する。また、イベントの目玉としてVRを使った最新テクノロジー体験ができる場を設置する。チャレンジショップの出店者については、起業を目指している方、起業間もない方を古賀市内在住者から募集する。店舗の種類は雑貨店をメインとする。

・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策

飲食店はテイクアウトとする。また、出店者はマスクを着用し、消毒液の設置、ソーシャルディスタンスへの配慮も行う。また、来場客が一か所にとどまらないように商店街を周遊するような形に

する。

・募集方法

こがみらいHP、SNSを活用。また、今後イベントをやっていく中で一緒にコラボする方々を通じて周知していく。

<質疑応答>

(委員) 様々な相乗効果を見込んでいる中で、一番の狙いは商店街の賑わいづくりとのことだが、事業実施後に商店街の賑わいを具体的にどう測るかということ、例えば、商店が儲かり始めたこと、人通りが増え始めたこと、商店街全体が活性化したことなどが考えられるが、それらに対してクリスマスマーケットがどのように貢献したのかを測る方法は。

(申請者) 今年6月にオープンしたこがみらいの窓口に、起業したいという人やボランティアしたいという人が何人か来ている。こがみらいはそういった方々の活動を支援し、将来的には起業してそこに人が集まってくるという流れを作りたい。

(委員) 商店街の人通り等ではなく、古賀で商売したい、起業したいという人が増えてきてコンテンツが揃っていくことが商店街の活性化であり、成果指標としては起業した人の数とすればそれが見えてくるということか。

(申請者) そのとおり。

(委員) 収支の支出で賃金について、業務内容はこういったものか。

(申請者) 一緒に電飾を付けたり、来場客を周遊させたいので、周遊箇所にもってもらったりすることを考えている。イベントについては、今後も学生、ボランティアと一緒に考えてアイデアを出してもらい、それらを取り入れていきたいと考えている。

(委員) 当日のスタッフという位置づけか。

(申請者) 2日間の当日スタッフという位置づけ。

(委員) 委託料に記載された販売ボックスはどのようなものか。

(申請者) 現時点では、車を付けた折り畳み式で大きさは1m程度のものを予定している。事業については1年目なので、まずは実施してみて、という所もある。

(委員) 収入について、将来的に補助金がなくなったときに、例えば起業した方から支援等も考えられるが、それについては。

(申請者) 今年度は1年目なのでそういったものはないが、2年目、3年目についてはそういった支援を受けることも考えられる。

○プレゼンテーション審査結果

(事務局)

- ・こが婚活サポートセンター出合いの集い事業 <NP0 法人こが婚活サポートセンター>
平均合計点9.8点、平均評点2点以下の項目あり
→ 不採択
- ・ライフプランノートを使った終活講座事業 <NP0 法人市民後見センターふくおか>
平均合計点16.0点、平均評点2点以下の項目なし
→ 採択

・古賀市民クリスマスマーケット事業 <一般社団法人こがみらい>

平均合計点 15.4点、平均評点2点以下の項目なし

→ 採択

(委員) 落選したこが婚活サポートセンターについては、今回が初めての申請とのことで、こういうものは何度も挑戦するものなので、事務局よりフォローをしてほしい。

(委員) こが婚活サポートセンターについて、申請者の熱意、やる気、市への思いは伝わってきた。書類を整える、今回の質疑で出た課題をクリアするなどして、今後も活動を頑張ってもらいたい。

○個別補助金について

(事務局)

・第1回補助金審査委員会での質問への回答

前回、補助金審査委員会での審査結果によって補助金額が減額となった補助金の件数についてご質問を頂いていた。その回答として、平成29年度審査補助金33件について、見直し前のH29決算と見直し後のH31決算を比較したところ、審査結果による見直しで減額となった補助金の件数は18件、金額としては11,447千円の減額となっている。

・審査要領の改正(案)について

令和3年度以降の補助金審査における審査資料として、新たに担当課が作成する担当課評価書を追加する。また、審査項目について、これまでは「公益性」「効果」「妥当性」「適正性」の4項目だったものを、「公益性」「必要性」「効果」の3項目とし、それぞれの点数の平均値によって判定を行う。

(委員) 審査委員会での審査は、補助金額の減額ではなく、担当課・補助対象団体(者)が市補助金を有効活用できるようにすることを目的としている。職員の意識改革に繋げてほしい。

(委員) 審査要領改正(案)の担当課評価書について、自分の事業ということを明確化するため、名称を「担当課自己評価書」とすることを検討してほしい。

○その他

(事務局) 令和3年5月に、本日採択された事業の報告会を予定しているので、後日、日程調整をさせていただきます。

(委員長) 今年度の補助金審査委員会は本日で最後となる。以上をもって、令和2年度第2回補助金審査委員会を終了する。